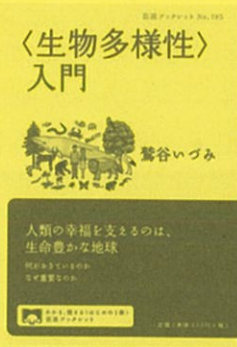


学生に読んでほしい本

川瀬 博



鷺谷いづみ著『〈生物多様性〉入門（岩波ブックレット）』（岩波書店、2010）

現代は生物多様性の危機の時代といわれていますが、私たちの日常生活からは見えにくい構造となっています。本書は生物多様性とは何かについて、調査研究と豊かな見識に基づいて著者の知見を披露してくれています。そこで私たち読者は毎年4万種もの生きものがこの地球上から絶滅している現実の姿を知ることになります。ではこの現実を私たちはどのようにとらえたらよいのでしょうか。

本書は、人類の幸福を支えているのは生物多様性のおかげであるという観点からその内容を明らかにしてくれます。

生物多様性の「めぐみと由来」、「生物多様性の危機」、そして「危機を乗り越えるために」と読み進めて行くと、未来の希望が見えてきます。

本書は、生物学と政策学にまたがる高度な内容を分かりやすく解説してくれている好著です。写真や図表も多く私たちの理解を深めてくれます。



いしいひさいち著『現代思想の遭難者たち（講談社学術文庫）』（講談社、2016）

本書は学術文庫の1冊として2016年5月に店頭に並びました。皆さんご存知の漫画家いしいひさいち氏による思想家紹介の見事な漫画本です。そこには現代思想の形成に貢献した思想家がパロディ風に描かれています。私の好きなメルロ＝ポンティやフッサールはもちろん、マルクスやフロイトも登場しています。

本書の特色は、まず彼らを思想の冒険者（アドベンチャー）と捉え思想の傾向により4分類（1章から4章）しています。それは「超えゆく思想家たち」、「疾駆する思想家たち」、「^{さまよ}彷徨いゆく思想家たち」、「一人ゆく思想家たち」と。彼

らを冒険者と捉えていますので、その果てに待ち構えているのは受難・遭難ということになります。

落ちは5章「現代思想の二重遭難者たち」にあります。たとえばメルロ＝ポンティ。彼は現象学の創始者フッサールの後期思想から強い影響を受けながらも、その独自思想を切り開くという一度目の受難・遭難と、友人であるサルトルとの確執と和解というこの二重の受難・遭難をエピソードとして描いています。

思想・哲学が好きな人はもとより、苦手な人や無縁な人にも単なる漫画本にとどまらず、著者独自の哲学書、思想解説書としてお勧めできます。

ワークショップのご案内

神奈川大学法学研究所主催の第6回ワークショップ

2017年11月18日(土) 13:00～16:30

神奈川大学法学研究所主催 第6回ワークショップ

『自治体の障害者差別解消施策——その現状と課題——』

神奈川大学横浜キャンパス 3号館3階 305講堂

編集後記

現在、法学研究所では、「行政情報に関する国民への適切な提供と意見聴取のあり方(代表者 幸田雅治)」、「企業の社会的責任(CSR)における国際人権基準の実現に関する研究(代表者 金子匡良)」、「障害年金法の研究(代表者 嘉藤亮)」、「障害者に対する合理的配慮の実現における自治体の機能と役割(代表者 山崎公士)」、「『表現の自由』の理論におけるポリンジャーの『寛容』論の意義と限界について(代表者 池端忠志)」、「 commonsの新しいかたちを求めて(代表者 東郷佳朗)」、「自治体における司法的作用に関する比較研究(代表者 柴田直子)」の7つのプロジェクト型共同研究が展開されています。

今後とも、ニューズレターでは、法学研究所の活動をお伝えしていきたいと思っております。

法学研究所

所長	井上 匡子	教授
常任委員	柴田 直子	教授
	東郷 佳朗	准教授
	大川 千寿	准教授

地方自治センター

センター長	安達 和志	教授
運営委員	出口 裕明	教授
	三浦 大介	教授
	諸坂 佐利	准教授
	嘉藤 亮	准教授

国際人権センター

センター長	阿部 浩己	教授
運営委員	山崎 公士	教授
	井上 匡子	教授
	柴田 直子	教授
	金子 匡良	教授

神奈川大学法学研究所 ニューズレター 2017.10/No.22

発行者：神奈川大学法学研究所 井上 匡子

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL 045-481-5661 (代表) FAX 045-413-6141

印刷所 (株)江森印刷所

〒221-0014 横浜市神奈川区入江1-34-25 TEL 045-421-2297